



お爺ちゃん保育士 ただいま奮闘中！ 68歳、保育士2年目、私が今も働く理由



荒澤 光利

静岡県立総合病院院内保育所保育士
(元静岡県職員)

【あらさわ・みつとし】

昭和23年、静岡県浜松市生まれ。昭和47年中央大学法学部卒業後、静岡県入庁。県職員として出納、情報管理、文化事業政策などに37年間携わる。定年退職後は企画広報部広報課の非常勤職員として6年間勤務。孫育てをきっかけに64歳で保育士資格を取得。平成27年4月から静岡県立総合病院院内保育所に保育士として勤務している。

昨年8月で満68歳になった。高齢者と言われ始めてから既に3年も経つのに、まだ働いている。それも「保育士」という、これまでの公務員生活とは全く関係のない職種で。

なぜ保育士なのか

私は今、月曜日から金曜日までの週5日間、朝8時から午後2時45分まで1日6時間を保育士として働いている。なぜ、私が保育士として働くこととなったのか。そもそも、なぜ保育士の資格を取ろうと思ったのか。

私には娘2人がいるが、私の退職の年に長女が初孫を産んだ。産後の休暇と1年間の育児休暇を取った娘は、1歳3カ月の孫を保育所に預け職場復帰した。

集団生活を始めた孫は保育所等ですぐに色々な病気をもらい、よく熱を出した。毎朝の検温で37・5度以上の熱があると保育所から呼び出しの電話が娘のところにかか

ってくる。娘は総合病院の病棟看護師をしているため、一旦シフトに就くとその場を離れることができない。必然的にお祖父ちゃんお祖母ちゃんのところへヘルプの連絡が入る。私の娘のように近くに頼れる近親者がいる者は良いが、そうでない方はどうしているのだろうか。ふと疑問に思った。

その時私は62歳であった。まもなく年金生活に入る。そうしたら、地域で子育て支援に何等かの形で携わり、老後を過ごしていければいいなと思った。地域のお子さんを預かるとしても、預ける方の気持ちを考えて、ちゃんとした資格(保育士等)があった方が、親御さんはより安心して預けてくれるだろう。それが保育士資格を取ろうと思ったきっかけだ。

保育士資格の概要

当時、私は静岡県の企画広報部広報課で

非常勤職員として働いていた。私の勤務場所に県の行政資料コーナーがあり、そこに保育士試験の過去問題が5カ年分配架されていた。試しにその問題を解いてみたら意外と簡単で「これならすぐにでも受かる」と、その時はそう思った(それが後で後悔することになるのだが)。

私は平成23年度と24年度の2カ年、国家資格である保育士試験を受けて2年目で合格した。保育士試験は学科10科目(現在は9科目)の筆記試験に合格すると、その後、実技試験(音楽、言語、絵画のうちから2科目を選択)を受けて最終的に合否が判断される。

私が受験した時は、学科試験が8月の第一土曜・日曜、実技試験が10月の第一日曜だった。学科試験は1科目20問出題され、12問すなわち6割取れば合格である。一度合格点を取った科目は3年間有効である。すなわち3年間のうちに全ての学科試験に合格しなければ、また最初からやり直しとなる。

写真右／保育士試験を思い立った頃の筆者と初孫
写真左／二人の孫と一緒に



保育士試験合格に向けての 勉強と最大のピンチ

では、どのように勉強したのか。最初は、週1回2時間の講座を開設している保育士受験の専門学校があったので、そこへ通うこととした。1カ月が経つと、月末毎に簡単な模擬試験があった。でも毎回なかなか合格点を取れなかったのが現実であった。やはり、若い時とは違って記憶力はかなり衰えていた。

そこで、方針を変更した。過去問題を中心に、問題集をやることにしたのである。当然、問題はできなかつたし、解らないことだらけだった。でも、間違つたところや解らなかつたところを、逆に教科書なり参考書で覚えるようにした。今にして思えば、意外とこれが功を奏したようだ。

受験勉強が続けている中で、一度だけピンチに陥つたことがある。それは10学科中残りあと4科目の合格をめざした、2年目の受験勉強の時だった。

当時、長女は2人目の子どもを身ごもっていたのだが、7カ月目の時に破水してしまい、約1カ月間、静岡県立子ども病院の周産期センターに入院してしまつたのだ。当然、上の孫(当時3歳になつたばかり)の面倒を見る者がなく、我が家で預かることとなつた。そのため、試験日まであと1カ月という大事な時期に、受験勉強どころではなくなつてしまつたのだ。

もう合格することはあきらめ、夢を3年目の受験に託すことにした。しかし、そうは言つたものの、やはりあきらめきれず、孫を寝かしつけてから夜中の3時頃に起きて、少しでも頭に入ればと勉強はした。

結果、運も味方をしてくれたようで、3年目の受験を待つことなく、筆記試験は全学科合格することができたのである。

実技試験について

筆記試験が受ければ、次は実技試験である。実技試験は音楽と言語を選択した。言語は3歳児20名が目の前にとの想定で、3分以内でお話をする。私は『大きな蕪かぶ』を選んだ。3分以内に納めることと、蕪を引っ張る登場人物の順番等を間違えないことに注意しながら、私は毎晩ストリップウォッチを片手に練習した。

もう1科目は音楽を選んだ。音楽は募集要項の発表と同時に、課題曲2曲も発表される。その曲をピアノ、アコーディオン又はアコースティックギターで弾き語りをするので。これも3歳児20名が目の前にいることを想定して唄うことになつている。

私はピアノを習いたくても習わせてもらえなかつた世代で、ピアノが弾けない。でも、ちょうど私が大学生の頃はフォークソングが盛んな時代で、猫も杓子もギターをつま弾いた。私も御多分に漏れずギターの虜になつた世代であつたので、迷わずアコーステ

ィックギターで受験した。1年目に学科試験が6科目合格した時点で、残りの4科目は必ず来年には合格するのだとの決意を持ち、地元のギター教室に通い始めていた。

運も再度味方してくれたようで、実技試験は一発で合格した。翌年の平成25年1月、私は保育士登録をし、保育士としての活動が可能なこととなつた。

保育士の仕事とは

さて、保育士資格を取得しても、しばらくは県庁の非常勤職員を続けていたが、たまたま私の先輩が現在の保育所を管理運営する財団の常務理事を務めており、その方から「どうだ。保育士の仕事をやってみないか？」とお声がかかり、結果、現在の保育所に勤めることとなつた。

私が現在勤務するのは、静岡県立総合病院の院内保育所「おひさま」である。ドクターやナースのお子さん達を現在100名ほどお預かりしている。基本的には0歳児から2歳児までをお預かりすることになつている。すなわち幼稚園に行く年齢になると、保育所を退所してどこかの幼稚園に行くか、または3歳児、4歳児、5歳児を預かつてくれる保育園に転所する。

実際には、子どもには幼稚園教育を受けさせたいという親が多かつた。しかし、そうすると、子どもの帰りが早くなり、とても病院では働けない。そこで当保育所では「二重



保育」と称して、お子さん達を保育所児として朝お預かりし、その後、それぞれのお子さん達が通う幼稚園に送り出し、午後に幼稚園から帰ってくるお子さん達を再び保育所児として受入れ、お母さん達の仕事が終わるまでお預かりしている。

保育所「おひさま」の一日

ここで、保育所「おひさま」の一日を簡単に紹介してみよう。

朝7時45分受入れ開始。その後、検温、オムツ替え、朝の会、主活動。そして、11時頃から昼食。12時から昼寝。子ども達が昼寝をしている間に、子ども達の状態を観察しながら、連絡ノートを書く。その後、職員達の打合せ。午後1時から1時30分前後に職員の昼食。昼食後は午後2時30分子ども達を起こすまで、各種イベントの資料作りの作業が続く。

子ども達が昼寝から起きると、3回目のオムツ替え、手洗い。午後3時からはおやつ。そして4時前後に帰りの会と続く。その後、順次お迎えに来るお母さん方にお子さんのその日一日の様子を伝え、お子さんを送り出す。これが保育所「おひさま」のおおよその一日の流れだ。その間に、机や椅子の出し入れ、布団の上げ下げ、給食やおやつ後の室内の清掃等となかなかの力仕事が続く。

体力勝負の保育士業務

私は採用となった2015年4月1日に初めて保育士業務に携わった時、あまりの力仕事に体が悲鳴を上げた。死んでしまったら元も子もないと思い、すぐにでも辞めようと思った。でも、すぐに辞めたのでは、少々恥ずかしいとも思った。

同時期に採用された私と同年齢の女性の保育士が1週間で辞めたので、辞めることに対しては多少気が楽になっていた。だから、いつ辞めようかと辞めるタイミングをずっと見計らっていた。

ところが6月になったら、なんとボーナスが出た。額は些少ではあったが、ボーナスなんて現役時代以来であり、嬉しかった。勤務条件は労働基準法通りであるため、6カ月が経って初めて10日間の有給休暇が付いた。不思議なもので、その頃になると、なぜか体も仕事に順応し「力仕事は体のトレーニングと考えよう」と思うくらいにゆとりが出てきた。その結果、2年目も働かせてもらうこととなった。

さて、いつまで働くかであるが、この分なら3年目も働けるかも知れない。いや、70歳の声を聞くまでは働けるかも知れない。なお、1年目は2歳児及び二重保育児を担当していた。2年目は1歳児の担当である。年齢が違っていると、それぞれ覚えることも違い、大変勉強になる。

なぜ働くのか

さて「高齢者」と言われ始めてから既に3年も経つのに、なぜまだ働いているのか？人さまから見れば、県庁を定年退職し年金も沢山もらっていると思われているのに、なぜまだ働いているのか。

その答えは、ひとことと言えば、豊かな老後を送りたいからである。そしてそれは、経済的な面だけでなく、精神的にも豊かな老後を送りたいからである。

私は、昭和23年生まれなので、満64歳から年金を満額受給している。しかし、所得税だけでなく住民税、介護保険料、健康保険料等を差し引かれ、手元に入ってくる年金は月額20万円を大幅に割っている。1カ月の生活費を約30万円程度と見込んでいると、とても年金だけでは生活できないのが現状だ。

また、現役時代に期末勤勉手当で賄っていた費用も、どこからか捻出しなくてはならない。ローンを組んで建てた家も、年数が経てば老朽化し、屋根や外壁塗装などの手入れが必要になってくる。冷蔵庫やテレビ、エアコン等の大型備品も続々と耐用年数が迫ってくる。更に長生きすれば、家そのものの改造も必要となってくるかも知れない。お金は必要なのである。沢山あってもけつて困ることはない。

今にして後悔しているのは、若い時もち

と真剣に老後のことを考えて預貯金を増やす努力をしておくべきだったこと。後輩諸兄には同じ轍を踏んでもらいたくはない。今更悔やんでももう遅い。家のローンもなく子育ては既に終わっている。老後資金3000万円と言われているこの時代、少ない退職金にはなるべく手を付けたくない。何歳まで生きられるか解らないこの御時世にせめて、ぎりぎりまでは退職金を温存させたい。それがまだ働いている一つの理由だ。

もう一つの理由は、何もしないで趣味の生活に没頭できない性格だからだ。いわゆる貧乏性というやつだ。

私にも趣味はある

何かやっていないと心が落ち着かない。趣味がないわけではない。30代の半ばから茶道（抹茶）を学んでいたから、その活動に専念すればいいものを（多くの方がそうしているように）それができない。

茶道を学ぶ中で懐石料理を造ることが必要となり、県庁に勤務しながら夜間の調理師専門学校に通い、3年かけて調理師免許を取得した。その後、東京の茶懐石料理専門の教室に4年ほど通い、3年前からは茶道仲間と共同で月1回茶懐石料理を提供する場（一日10名の予約制）をつくった（意外と好評でリピーターも多い）。

しかし、それでも心が落ち着かない。結局短い時間であっても毎日規則正しく働く

ことが、自分の心を落ち着かせることだと気づき、今もまだ毎日働き続けている。働きたくても働けない人が多くいる中で、心身共に健康で働き続けることができる現在の自分に感謝している。

最後に 〜待機児童問題について〜

さて、昨今新聞紙上では、待機児童問題が頻繁に取り上げられている。保育園等の数が足りないからと様々な知恵を絞って、受入体制を整えようとしている。

一方で、保育士不足を解消しようと、賃上げや潜在保育士の現場復帰策等あの手この手で保育士を確保しようとしている。保育士試験も2016年度からは4月と10月の年2回実施されるようになったとの厚生労働省の告知も見た。

でも現実には厳しく、中には計画通りに保育士が確保できず、保育園等の規模拡大ができない施設もあるようだ。特に運営費助成などを国等に仰いでいる認可保育園は、保育士の数も厳しく、その確保に窮していると聞く。

私の勤務している保育所は、病院関係者のお子さんを預かるだけで、地域のお子さん達を預かっているため、認可が受けられず無認可保育園の範ちゅうに入っている。そのため、保育士資格を持つ職員ばかりではなく、一部には保育士資格を持たない職員もいる。当然保育士がやらなくてはなら

ない業務は保育士がやるが、そうでない業務は、無資格の職員が携わっている。結構それで、保育所の運営が滞りなく回っているようにも見受けられる。

今、私が高齢者ではあっても保育士として働き始めて思うことは、保育士が足りない部分は、子育て経験や現に孫育てをしている高齢者達（特に数の多い団塊の世代）をうまく活用して、マンパワー不足の現状を乗り切れば良いのということだ。

保育士試験で10科目も学科を勉強したが、現場に出て必要となる知識はせいぜい「子どもの保健」「子どもの食と栄養」「保育の心理学」くらいだろう。

それに実技試験も音楽やお話の力もさることながら、まずはオムツ替えやミルクの飲ませ方とゲップのさせ方、そして何より子どもの声を聴く力。これらができれば、即戦力として保育の現場で働けるのではないか。このような方々を、例えば「保育士助手」などという名称で現場活用できないだろうか。

私の住む静岡市では有償ボランティア事業「ファミリーサポートセンター事業」を行っている。昔そうであったように地域力の復活：血の繋がりはなくても、地域の子育ては地域の大人達（特に高齢者）がサポートする。このような地域を巻き込んだ仕組みづくりを行政が早急に進めることが、子育て支援でも当面の解決策であるように思えてならない。